

## 報道関係者と意見交換！



防大本部庁舎前で記念撮影



意見交換会の様子

自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 松田辰雄・海佐）は、11月2日（水）、横浜新聞懇話会との意見交換会を開催するとともに、合わせて防衛大学校研修を実施した。

同懇話会は、県内に所在する新聞社のほか、テレビ局やラジオ局など13社の支局長等15名の報道関係者で構成された団体で、同地本とは2年に1回、意見交換会を実施している。

当初防大研修では、普段目にするここのない学生舎や学生食堂、課業行進などを見学し、厳しい訓練や校友会活動、学生舎での先輩や後輩、同期との切磋琢磨を通じて、規律の習得や一生の仲間との絆を深めるとの説明に、参加者たちは非常に感銘を受けた様子であった。

また、意見交換会では、本部長自ら自衛隊での経験談や地本の業務について説明するとともに、参加者からは自衛隊に関する様々な質問が出るなど、胸襟を開いた意見交換ができた。

最後に、参加者からは「とても有意義な話を聞くことができた」「このような機会を、または非とも設けてほしい」などの声を聞くことができた。

神奈川地方協力本部は、「今後も、防衛省・自衛隊の活動に対する更なる理解を得られるよう、引き続き同懇話会との関係強化に努めていく」としている。

## 平成28年度自衛隊音楽まつり研修

## 神奈川地本カレッジ防衛モニター 亀谷 拓海

カレッジ防衛モニター5名で記念撮影  
(手前から2番目が筆者)

11月12日（土）、カレッジ防衛モニターとして、日本武道館で行われた自衛隊音楽まつりを研修した。

本まつりは、自衛隊記念日行事の1環で毎年11月頃に開催される自衛隊最大の音楽イベントであり、当日の会場内では、時間とともに席が次々に埋まり開演前にはほぼ満席状態となったことから、本イベントの人気の高さを感ずることができた。

同まつりの今年度のテーマは「音の力（強き、守りの響き）」であり、音や音楽による力強さを様々な形で表現した陸・海・空音楽隊によるドリル演奏のほか、米軍をはじめ、インド陸軍音楽隊との合同演奏もあり、日米同盟や友好国との繋がりの強さを感じることができた。

また、自衛太鼓では、全国の基地や駐屯地にある太鼓チームから選抜された13個チームが参加しており、それらのチームによる合同演奏では、沢山の和太鼓の音の響きで、会場全体の空気が震え身体全体で音を受け止めるような圧巻の演奏であった。

今回の研修では、音の力を生で体感することも貴重な体験ができた。

## 平成28年度自衛隊音楽まつり研修

## 神奈川地本カレッジ防衛モニター 清水 丈太郎

11月12日（土）、カレッジ防衛モニター研修として、日本武道館で行われた自衛隊音楽まつりを鑑賞した。当日会場に到着すると、自衛隊最大の音楽イベントということもあり、すでに多くの人々が来場していた。

当初同まつりには、自衛隊の音楽隊だけが参加するものと思っていたが、在日米陸軍や米海兵隊の音楽隊のほか、インド陸軍音楽隊も参加しており、その規模の大きさに驚いた。

また、自衛隊音楽隊は、広報活動のほか、隊員の士気高揚のための演奏という任務を有しており、一体どのような演奏をするのだろうかという期待があった。

公演が始まり、各音楽隊の演奏を聴いてみると、どの楽曲も陸・海・空自衛隊のそれぞれの仕事の特色や部隊が所在する土地柄をイメージさせる演奏で構成されているなと感じた。また、参加していた米軍の音楽隊も同様に、駐留している地域を連想させる演奏であった。インド陸軍音楽隊の服装は、自衛隊音楽隊とは違ったユニークさが感じられた。

これまで私の自衛隊に対するイメージは、最前線で国防を担う部隊が中心であったが、本研修を通じて自衛隊の別の側面も知ることができ、非常に有意義な研修であった。